

(曾於郡松山町泰野3410)

位置と環境

松山町は、大隈半島曾於郡のほぼ中央部に位置し、東西に細長く東西12km、南北4kmである。東は志布志町、西は大隅町、南は有明町・志布志町、北は末吉町に境している。経緯度は東経13度から13度7分、北緯31度37分で、町総面積は49.69km²であり、山岳は末吉町に境する宮田山520m、有明町に境する霧岳408mが主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と、尾野見排水東端と大統東端を流れる安楽川の支流が主な河川である。気温は年間平均16.5度で西部台地と東部台地とでは年間平均気温が1度から2度の差があり、西部台地は一般的に霜が早い。

京ノ峯遺跡は松山町のほぼ中央部に位置し、標高約170mの丘の最頂部を中心に長さ約300m、幅約100mの大きさの遺跡である。遺跡の南側に前谷遺跡が存在し、そのすぐ近くに湧水地もみられる。

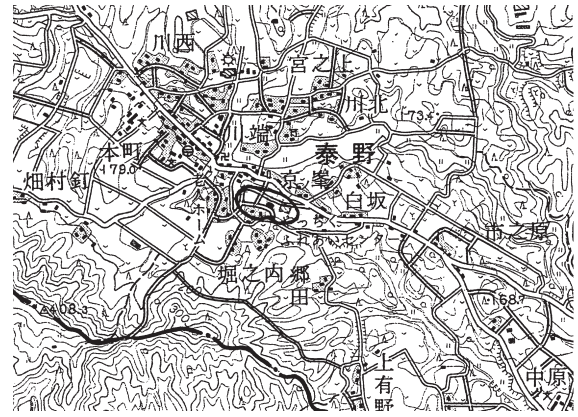
調査の経緯

平成元年度に松山町が、約30,000m²の用地を購入し、保健と文化の複合施設と住宅の建設を計画したため、町教育委員会が調査主体となり平成2年度に確認調査を行い遺跡の範囲が把握されたが、保存が困難なため、平成3年度に本調査を実施した。

遺構と遺物

京ノ峯遺跡は、縄文時代前期から弥生時代、古墳時代、中世にわたる複合遺跡である。遺物は縄文時代前期の春日式土器や後期の市来式土器、晩期の入佐式土器、弥生時代の山ノ口式土器、中世の土師器等が出土している。さらに遺構では、弥生時代の円形周溝墓20基と方形周溝墓が2基、祭りに使用したと思われる土壇が2基、古墳時代の地下式横穴墓が8基、また、中世のものと思われる方形周溝墓が2基発見されている。

弥生時代の円形周溝墓・方形周溝墓は、中央部に人を埋葬するための土壇があり、その周りを溝で円形に囲ったものが円形周溝墓で、方形に囲ったものが、方形周溝墓である。溝の中の土に桜島の火山灰



第1図 京ノ峯遺跡の位置

が入っていた。周溝内部には人を埋葬した土壇があり、殆んどが東西方向を向いている。

13号円形周溝墓の隣には、完全な形の壺形土器が2点置いたような状態で出土したやや浅い土壇がある。その壺形土器は、胴部下部に意図的に穴をあけており、儀礼の時に使用したものと考えられる。この土壇の埋土には周溝墓の周溝と同じく桜島の火山灰が入っていた。

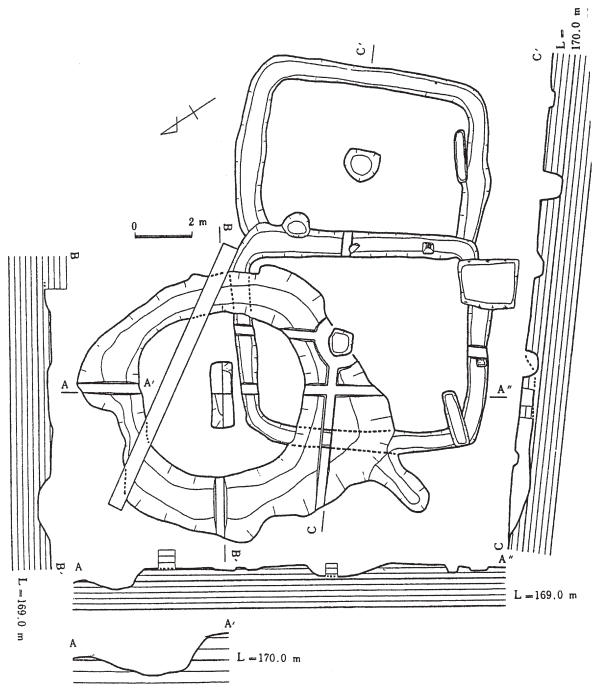
円形周溝墓の周辺には、地下式横穴墓9基を検出したが、そのほとんどの横穴墓が凝灰岩で玄室の蓋をしている。

遺跡の最頂部の地点には、中央部に約60cmの方形で深さ約70cmの土壇がある方形周溝墓が2基重なり合って検出された。周溝には、そのほかの弥生時代の周溝墓に見られる火山灰はなく、古石塔の笠石が出土した。周溝内の土壇の形状や、周溝から検出された古石塔から考えると中世のものと思われる。

そのほかに、土壇墓（周溝を伴わないもの）が20基検出されている。住居等の遺構は発見されなかつ



写真1 13号円形周溝墓検出状況



第2図 13号円形、1・2号方形周溝墓検出状況

た。

また、遺物も円形周溝墓が群集する地点から弥生時代の土器やそれ以降の土師器等が出土し、やや遺跡の北東端に位置する地点からは縄文時代前期、中期の土器が出土している。

特徴

本遺跡は、大まかに遺物の出土地点により、中心部が時代ごとに二つに分類される。一つは、遺跡の北東端の縄文時代の遺物が多く出土した地点で、もう一つは遺跡の西側で、弥生時代以降の遺構を検出した地点である。特に、西側の地点で出土した弥生時代の遺物は主に生活用具に使用される甕は2点ほど出土したのみで、そのほかは全て壺形土器である。また、弥生時代中期の円形周溝墓が発見されたのは南九州では初めてで、さらに群集している事も非常にめずらしいものである。また、周溝墓が発生した関西地方では、周溝内部に人を埋葬した土壌（以下主体部と称す。）が数基確認され、家族墓的な要素が見られるのに対して、本遺跡においては一周溝墓に対して主体部は1基のみである。また、周溝の埋土内或いは土壌墓内に副葬品を伴うが、それが全く見られない代わりに周溝墓周辺に死者を葬った時に儀式をしたと思われる土壌が確認されている。さらに全

ての周溝墓の主体部はおよそ東を向いており、規則性が伺える。また、通常の周溝墓では見られる陸橋部（人が渡る事ができる部分）が、見当たらず、完全に周溝内部と外部を隔離している。周溝墓が発見された地点は小高い丘の最高部になっており、周囲を一望に見渡せる。

さらに、出土遺物には生活用具である甕形土器はごく小量で、祭祀用土器がほとんどであった。このことからこの遺跡が墓域であった事が伺える。ま



写真2 1号祭祀土壌検出状況

た、弥生時代以降も、地下式横穴墓や中世の方形周溝墓が検出され、地元の方の伝承によれば明治以前には神社等が存在したそうである。以上の状況から、ここは長い間、この地域の住民にとって特別な意味を持つ場所であったようである。

資料の所在

出土遺物は、松山町歴史民俗資料館に保管、展示されている。

参考文献

松山町教育委員会1993「京ノ峯遺跡」『松山町埋蔵文化財発掘調査報告書』7

（上田義明）